

平成26年度 学校評価(自己評価)

具体的目標および評価の観点		評価と課題
今年度の重点目標	① 多様な生徒に応じた、きめ細やかな指導に努め、生徒の自立と伸長を図る。	特別教育支援員の方と連携し、学年、係及び各教科で粘り強い取り組みが行われている。少人数なので指導しやすい面もあるが、生活習慣、学力ともに定着させるには、更に工夫が求められる。
	② 「授業は命」を合い言葉に、授業の質の向上を図り、学力の定着、向上をめざす。	習熟度別やコース制で少人数の指導を行っている。更に、わかる授業の実践を通して学力の向上につなげたい。また、コース制が活かされるような編成や内容を検討していきたい。
	③ 人権・生命を尊重し、いじめや体罰のない安心安全な学校づくりをすすめる。	人間関係を作るのが不得手な生徒が増加する中で、仲間づくりやコミュニケーション能力を養う取り組みを行ってきた。引き続きすすめていきたい。
	④ 地域・保護者に信頼される、魅力ある学校づくりをすすめる。	本校のビジョンや地域学習のあり方など検討。更に、現状に即した教育課程等の見直しをすすめたい。

領域	重点目標番号	評価項目	具体的目標および評価の観点	評価	成果と今後の課題
教育活動	学習指導	① 基本的学習習慣の確立	1 生徒に学習意欲を喚起することができたか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生では、国語、数学、英語において習熟度別授業を実施した。応用・標準の講座替えを度々行い、個々に応じた授業を展開できた。入学時に比べ意欲的に学習に取り組む姿勢がみられ、徐々に学力も向上した。 ・2年生は、進学・教養のコース選択を実施した。進路目標に向かって学習に取り組むことができた。 ・3年生は、各自の進路実現に向かって、資格取得等、具体的な目標を定めて努力し、成果をあげることができた。さらに、全学年で学校設定科目「ベーシック」では、基礎力の向上に向けて個別の指導を行い、生徒は熱心に取り組むことができた。 ・少人数の特性を活かした双方向型の授業展開を進めることが課題である。
			2 必要に応じて個別指導や学習支援ができたか。	B	
	② わかる授業の実践	1 少人数授業が効果的に機能しているか。	B		
		① 進路意識の形成	1 進路ガイダンスを効果的に設定できたか。	A	
	① 希望進路の実現	2 就業体験を通して将来の進路意識を高めることができたか。	B	進学は、大学・短大・専門学校に13名が合格。就職希望者は就職支援員の方の指導もあり多くの生徒は就職先が決定したが、卒業後も外部機関の就労支援を受ける者もいる。入学時から、生徒の状況に応じて外部機関等との連携、ソーシャルスキルトレーニング等が必要である。	
		1 コース制を生かした進路実現が図られたか。	B		
	② 生徒指導	③ 問題行動への対応	2 生徒の目的意識を明確にし、納得のゆく進路選択が図られるよう進路相談を行うことができたか。	A	
			1 基本的な生活習慣の確立	1 日常的な啓発活動ができたか。	
	① 問題行動への対応	2 家庭と連携して指導できたか。	B		
		③ 特別活動	1 問題行動を未然に防ぎ、校則を守る意識の向上が図れたか。	B	
① 生徒の自主活動の促進	2 人権に配慮し、生徒にとって居心地のよい雰囲気を作れたか。		A		
	① クラブ活動の活性化	1 生徒会活動を通じ、生徒の自主性を育むことができたか。	B		
① 将来に向けての教育課程の検討		1 生徒会活動を通じ、生徒の自主性を育むことができたか。	B		
	① 個に応じた選択科目の設定	1 クラブ活動を活性化させることができたか。	C		
① コース制授業の充実		1 本校の現状に即して、選択科目の見直しを含めた教育課程を検討することができたか。	B		
	① 開かれた学校づくり	1 個々の生徒の進路希望に応じた選択科目を設定できたか。	B		
④ 将来に向けての本校のあり方について		2 生徒の希望する進路に応じた指導はできたか。	B		
	① 地域との連携	1 これまでの授業内容を一層充実させ、生徒が満足できるように指導できたか。	B		
④ 将来に向けての本校のあり方について		1 授業等公開できたか。	A		
	④ 将来に向けての本校のあり方について	2 地域と共同しながら行事等を行うことができたか。	A		
④ 将来に向けての本校のあり方について		3 地域への広報活動は十分であったか。	B		
	④ 将来に向けての本校のあり方について	1 地域の要望を聞きながら、学校改革をすすめることができたか。	B		
④ 将来に向けての本校のあり方について		2 地元中学校からの進学者の増加を目指し、本校についての理解を深めてもらえるよう、積極的に働きかけることができたか。	B		

* 自己評価: A 十分 B おおむね十分 C やや不十分 D 不十分
 (各具体的目標および評価の観点について上記A~Dのいずれか評価する)